

## あいさつで心を開き、豊かな人間関係を築く

校長 森 恵子

新しい学年、学級がスタートしてもうすぐ1ヶ月が経ちます。どの学年の子どもたちも新しいクラスにもしだいに慣れ、子どもたちの顔にもいつもながらの笑顔が戻り、教室からは楽しげな話し声が聞こえてきます。

朝、校門に立っている時や休み時間、校舎内を歩いている時に「おはようございます」「こんにちは」という元気一杯の声をたくさん耳にするようになりました。友達同士、先生と子どもたち、先生同士、それぞれが気持ちよく挨拶を交わせるということは、互いに存在を認め合い、心を開き合うことがあってのこと、その声が増えてきたということはとても素晴らしいことです。

朝の挨拶、帰りの挨拶、挨拶はそれだけではありません。「ありがとう」「ご苦労さま」など、思いやりをもった一言が自然の挨拶と言えます。このような挨拶は友達同士、子どもたちと先生との心のふれあいを深めます。子どもも大人も『心のもった一言』をかけられれば嬉しいものです。挨拶をきっかけにして、人間関係が深まります。

さて、川和東小学校では、保護者のみなさまもご存知の通り、子どもたちを育てていく方向を、子どもたちにも十分理解できる言葉にして伝え、指導をしています。それは、先頭の一文字をとって『あ・い・う・え・お』の合言葉です。

『あいさつをしよう』

『いっしょうけんめいがんばろう』

『うんどうしよう』

『えがおで』

『おもいやりをもって』

これらの5つの指導の中にも「あいさつ」の大切さをうたっています。

誰にでもできる挨拶、されど真の挨拶をする難しさを感じつつ、人間関係をより深めていくような挨拶をさせたいと思います。

人間関係を学ぶ学校において「挨拶」は大きな役割を担うことになるだろうと考えられます。しかし、挨拶から始まる人間関係は、学校の間だけでなく、各家庭においても重要視してほしい。「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「行ってきます」「ありがとう」「ただいま」・・・挨拶は家庭において親子関係にも必要なことだと思えます。一家団欒の時の話題にしていただければと。

今月は、家庭訪問があります。短い時間ではありますが有意義な時間にしていただきたいと思います。宜しく申し上げます。